

パネル

東日本大震災と宗教

代表者 稲場圭信

コメンテーター・司会 黒崎浩行

宗教の救援活動・応答

——宗教者災害救援ネットワークから——

稲場 圭 信

本発表では、インターネット上に開設したキュレーションとしての取り組み「宗教者災害救援ネットワーク」を通して、東日本大震災における宗教の救援活動・応答を概観する。

三月十一日、東日本を襲った巨大地震、そして続く大津波により多くの方々が犠牲となった。その震災の当日に大震災対策本部を立ち上げた教団もある。そして、迅速に現地へ先遣隊を送った。被災地で全壊を逃れた寺社教会宗教施設が一時避難所となり、そこに集った人たちは支えあった。

報告者は、三月一三日に黒崎浩行らに呼びかけてインターネット上に「宗教者災害救援ネットワーク」を立ち上げた。宗教者・宗教団体の活動情報を共有・発信し連携する場である。また、一九日には各宗教施設の被災情報および救援活動の拠点を表わす「宗教者災害救援マップ」を作成した。システム構築

は、黒崎浩行が中心となって担当した。

岩手・宮城・福島三県に一万ほどの宗教法人が存在する。被災している寺社教会宗教施設も多いが、避難場所、救援活動の拠点として機能しうる。現地の宗教者からの情報、各教団のホームページの情報、各種メディアによる宗教者の活動を取り上げた記事を「宗教者災害救援ネットワーク」、「宗教者災害救援マップ」に集約していった。さらに「宗教者災害支援連絡会」（代表・島蘭進東大教授）と連携し、宗教者・学者の支援の輪が広がった。

宗教者災害救援ネットワークの取り組みはキュレーションの一種である。キュレーション(curation)とは、「無数の情報の海の中から、自分の価値観や世界観に基づいて情報を拾い上げ、そこに新たな意味を与え、そして多くの人と共有すること」だ（『キュレーションの時代』佐々木俊尚著）。

宗教者災害救援ネットワークのサイトには、報告者を含め数名が管理人として関わっている。数ある情報から、必要なもの、関連するものを収集する。そして、引用元を明示する、リンクさせる。サイトの管理人は、多数ある情報の中で、目利きとして必要な情報を集約しているキュレーター(curator 博物館学芸員)なのである。サイトの立ち上げから一〇日ほどで記事表示回数は一〇万回を超えた。八月末の段階で七五万回を超えている。

宗教者災害救援ネットワークに集積されている情報は、以下のようなものである。宗教団体の被害状況・安否情報、対策本部・救援活動、募金呼びかけ・教団による義捐金寄付、避難者

受け入れ、祈り・供養・法要、心のケア、宗教者の救援活動に関するマスコミ記事。

宗教者が被災地への物資輸送から火葬場での読経奉仕まで様々な活動を展開している。被災者の受け入れをしている寺社教会宗教施設もある。地域の文化・つながりを尊重しつつ、現地の宗教者が地域を立て直すのを後ろから支えるという形の支援も大切であろう。

日本人の多くは自分は無宗教と思っているが、先祖に対する感謝の念や神仏や世間に対する「おかげ様」という思いは生きている。この「無自覚の宗教性」も支援の輪が広がっている背景にある。

一方で、公共施設の中に僧侶が入っていない、弔うことができないといったことも起きた。このような現実の厳しさを僧侶は痛切に感じている。宗教者は日常的にどれほど社会に関わってきたのか。

報告者は、「心のケア」ではなく「丸ごとのケア」が必要だと主張している。地域のつながりを奪われ、家族を無くし、縁を失った人たちが、これから生きていく、その生を丸ごとケアする。未曾有の大災害に宗教者も社会も「新たな縁」「取り組み」を模索している。研究者もその関わりが問われている。

宗教者の活動とソーシャルメディア

榎 本 香 織

東日本大震災時、TwitterやFacebook等の「ソーシャルメディア」と呼ばれる媒体が多くの情報収集や提供、共有に大きく貢献した。本発表は、災害時における宗教者のソーシャルメディアを用いた活動を俯瞰し、また今後どのような活動が可能かを考察する。

「ソーシャルメディア」という語は、二〇〇六年頃よりアメリカで登場し始め、複数のSNSが興隆と衰退を交差させる中で定着した。ソーシャルメディアは、オンライン空間で「リアル」な体験（経済活動を含んだ擬似生活、実名主義による交流、ニュースのリアルタイムな拡散等）を可能にし、従来の「ヴァーチャルリアル」の二項対立では捉えきれない空間を創出している。ソーシャルメディアの媒体による線引きは難しいが、本発表では日本で多く利用されているmixiやTwitter、そして利用率が伸び始めているFacebookにおける活動状況を取り上げた。

mixiでは震災後、コミュニティのカテゴリに「震災関連」枠が追加されたが、その枠内で明らかに宗教者（特定の団体の信者）によって作成されたコミュニティは、わずか四件ほどであった。これは既存の教団コミュニティ内で既に支援活動に関するトピックが立ち上げられていた為で、多くの対話が行われていた。しかし多くのmixiにおける活動は、特に物資支援関